

真のグローバル・ゼネラル コントラクターをめざして

五洋建設 サステナビリティへの挑戦

創業当初、造船所のドック築造や埋立浚渫など、「港湾土木」の分野で実績を積み、現在は土木・建築・海外の三本柱で、グローバルな事業展開を推し進める五洋建設。その先の「めざす未来」とはどういうものなのか。清水琢三社長に訊く。



五洋建設代表取締役社長
清水琢三

女優
紺野美沙子

五洋建設ミュージアムにて。
スエズ運河の工事で
使用された浚渫船の
カッターヘッドをバックに

紺野 今日は、栃木県那須塩原市にある技術研究所をお訪ねして、この五洋建設ミュージアムでお話をうかがわせていただきますが、(うしろを振り返って) 正面に展示されたこの巨大な竜の牙みたいなおブジエ、すごいですね。

清水 これは当社が一九六一年にエジプトのスエズ運河の改修工事を受注した際、工事で使用した浚渫船のカッターヘッドの現物なんです。

紺野 これで運河の底を掘っていったんですか？

清水 そうです。スエズ運河は「悪魔の岩盤」と言われる非常に硬い地盤でした。そこでこのヘッドの先端に付けるチップの形状を何度も改良して、ようやく工事を終えることができたんです。

紺野 会社の歴史が刻み込まれた貴重な資料なんですね。

清水 この技術研究所は創業百周年の記念事業の一環として建てられたもので、そこに資料館が設けられ、このカッターヘッドも展示されていたんです。ただ、一般公開はしていませんでした。二〇二一年に百二十五周年を迎えるにあたり、



洋上風力発電建設に使用されるSEP船(自己昇降式作業台船)の模型を見ながら、清水社長から説明をうける

当社の過去の歴史も含めて建設業の魅力を社内外に発信する場にしようと、五洋建設ミュージアムとして拡充したんです。昨年七月にオープンしたばかりで、今春から一般のみなさんにも観ていただくように考えています。

紺野 見学すれば、五洋建設さんの過去、現在・未来がすべてわかると。

清水 技術を核として、様々なことに挑戦するという、当社の経営理念、社風は変わっていない、というのがよくわかります。「進取の精神の実践」が、当社の

経営理念のひとつです。

五つの大洋を越えて、 世界に雄飛する企業へ

紺野 五洋建設さんの経営理念とは、どのようなものなのでしょう。

清水 「社会との共感」、「豊かな環境の創造」、そして「進取の精神の実践」です。創業百周年を迎えた一九九六年以降、当社は事業量が急激に縮小する中で、財務の健全化を迫られました。その苦境を乗り越えられたのも、脈々と受け継いできた、ESG(環境・社会・企業統治)に通じる経営理念があったからです。それを真摯に実践し、技術力、現場力を高めできたことが、今日に繋がっているといます。

紺野 御社は明治時代の創業なんですね。
清水 そうです。一八九六(明治二十九)年、四代目水野甚次郎が広島県呉市で水野組として創業したのがはじまりです。海軍工事を中心に各地で港湾土木工事を数多く手がけたので、いつしか「水の土木の水野組」というふうに呼ばれるようになったと聞いています。



Takuzo Shimizu

1958年、京都府生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、大学院修士課程修了。博士(工学)。83年、五洋建設入社。経営企画部長、名古屋支店長、土木営業本部長等を経て、2014年、代表取締役社長に就任

紺野 それが今では、土木工事だけでなく建築工事まで幅広く手がけておられます。そのきっかけというのは？

清水 一九六四年に本社を東京に移し、六七年に社名を水野組から五洋建設に改めたんです。PENTAROCEAN CONSTRUCTIONです。

紺野 五つの大洋(OCEAN)ということ、まずは太平洋と大西洋とインド洋。あとの二つは……。

清水 北氷洋と南氷洋ですね。五つの大洋を越えて、海外に雄飛するという壮大な名前なんです。その背景には、さきほどお話ししたスエズ運河の改修工事がある

ります。それを機に、わが社は海外事業へと進出します。特にシンガポールは、戦後埋め立て工事でも国土を二五%拡張したんですが、その工事の四割に当社が関わっています。

紺野 国土拡張に大きな貢献をしたんですね。

清水 全体の埋め立て面積の十%を当社が手がけたことになりました。それだけではありません。シンガポールでは建築の分野にも進出しました。海外では、日本とちがって「土木」と「建築」の区別がないんです。当社は現地で知名度がありましたから、建築にもスムーズに進出できました。シンガポールでは、二〇〇二年、中心地マリナー・ベイにオペラハウスとコンサートホールを、二〇一〇年には、オーチャード通りに商業施設IONオーチャードと高層住宅の大型複合施設を完成させました。また大型病院なども

手がけています。

洋上風力建設の フロントランナーとして

紺野 海外と国内が連携しながら発展してきたと。

清水 そうです。日本でも、大型工事は海外と同じように、土木部門と建築部門が同じ現場に入って、それぞれの部門の得意なところを生かしつつ、ひとつの建物を建てています。例えば、大阪・梅田駅前の「ヨドバシ梅田タワー」は、地下の工事と地上の工事を同時に施工する



シンガポールの中心地マリナー・ベイに建つ「エスプラネード・シアターズ・オン・ザ・ベイ」。果実のドリアンをイメージしたユニークな外観



本格工事が始まった北九州市響灘の洋上風力発電建設工事。総出力は最大22万キロワット。2025年度に運転を開始する予定だ

「逆打ち」という工法で、軟弱地盤の地下の工事は土木が担いました。いま、国内土木、国内建築、海外の三本柱がほぼ同じ比率なんです。さらに新しい分野を立ち上げたいと考えているんです。

紺野 新しい分野？ それはどういうものですか。

清水 洋上風力発電の建設です。日本の再生可能エネルギーを拡大する、というのは大きな課題ですが、その中でも洋上風力発電というのは、ポテンシャルとして非常に大きいと期待されています。当社はヨーロッパの企業と合弁会社をつくり、その知見を生かして、洋上風

持続可能な未来を 切り拓くために

紺野 わたしたちの未来を考えると、エネルギーの問題というのは大切なことですからね。

清水 いま企業には、サステナビリティを考えた事業活動、企業行動が求められています。

サステナビリティとは、「さまざまな環境」の課題、さらには、人権の尊重や多様性を重視した人材活用、働き方改革といった「社会」の課題に對して、社会の持続的発展という観

点から適切に対応することです。当社でも、あらゆる事業活動においてESG環境・社会・企業統治を重視のサステナビリティ経営を実践することにより、真のグローバル・ゼネラルコントラクターをめざしています。

紺野 スエズ運河の堅固な岩盤を掘り進んでいったこのカッターヘッドは、持続可能な未来を切り拓く五洋建設のシンボルというわけですね。今日はお忙しいところ、ありがとうございました。

動画はこちら



Misako Konno

1980年、NHK連続テレビ小説「虹を織る」のヒロイン役で人気を博す。女優として活躍する傍ら、UNDP親善大使としても活動中。2010年から「紺野美沙子の朗読座」を主宰。22年からは横綱審議委員を務めている